



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	月刊DRF 第87号 (特別号)
Author(s)	デジタルリポジトリ連合; Digital Repository Federation
Description	事務局: 北海道大学附属図書館 http://drf.lib.hokudai.ac.jp/ で公開したもの
Issue Date	2017-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/73653
Type	journal
File Information	DRFmonthly_87.pdf





月刊 DRF

Digital Repository Federation Monthly

第87号 (特別号)

No. 87 March, 2017

【特集】 さよならDRF

DRFの行ってきた活動を年表と委員・WGメンバー名簿で振り返るとともに、委員としてDRFの活動を支えた全国の大学図書館員・関係者からのメッセージをお届けします！

真中孝行

(筑波大学)(2012技術WG、2013企画WG)

斎藤未夏

(筑波大学)(2008-09企画WG)



「DRFの思い出を語る二人会」

真中 斎藤さんのDRFのいちばんの思い出って何？

斎藤 やっぱりDRFICかなあ。DRFIC2009では海外のゲストをご案内する役になっちゃって、英語が自信ないと言ったら、土屋先生に「Follow me! って言え方がいいんだ」とか言われてねf^^;真中さんは？

真中 わたしもDRFICや図書館総合展のフォーラム運営ですね。なかなかこういうイベント系の一員として参加して動く機会がそれまでなかったのでも楽しかったし勉強になりました。あとはWGですね。最初技術WGに入ったときには何をどうするという自分の立ち位置がわかりませんでした。翌年企画WGだけになったとき人数が激減して寂しかったです…

斎藤 WG寂しかったのね(;_;)

真中 斎藤さんはそれこそ企画満載時のDRF運営に元気いっぱい関わっていたのですよね。

斎藤 元気いっぱいというか、必死？(笑) 海外にも行かせて頂いたんだけど、ハプニング続出でねーイギリスで内島さんが電車のチケット行き先を間違っちゃったりオランダで内島さんがベルト切れちゃったとか言い出したり・・・(内島部長、部長のことばかりばらしちゃってすみません)

真中 楽しいエピソードですね(笑) それはさておきDRFのよいところは全国規模の図書館員の水平的なつながりを作ったという意味でエポックメイキング(?)な組織だと強く思います。DRFが解消したあとの後継事業としてこれだけは続けて欲しいと思っていること、斎藤さん何がありますか？

斎藤 ええっ!! そんな難しい質問振るなんてっ! でも、DRFの精神はJPCOARのなかで生き続けていくわけですから、これからはJPCOARをみんなで盛り立てていきたいですねー♪

真中 そうですねーそう思います。わたしはMLとWikiはかたちを変えても残して欲しいですね。とても助けられたこと多数でしたので。

斎藤ほんとにそうですね。私なんか今でも過去レスをチェックしたりしてます。

(どうしよう思い出が尽きなくて終わらない…)

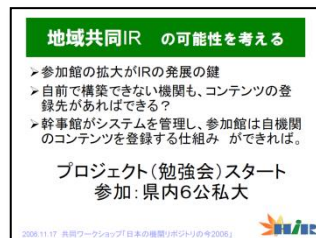
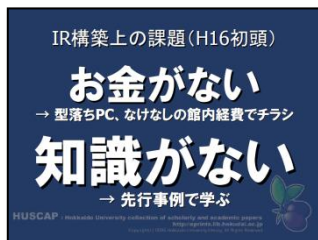
DRFとOA関連年表 ※DRF関連事項は青字

2005
(H17)

- ・北大・千葉大・金沢大を中心に機関リポジトリコミュニティ結成の動き。
- ・国立情報学研究所学術機関リポジトリ構築連携支援委託事業開始。

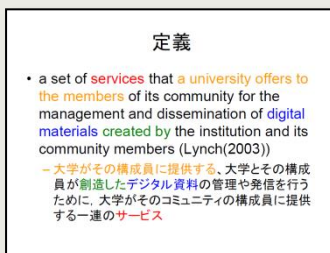
2006
(H18)

- ・ Digital Repository Federationとして学術機関リポジトリ構築連携支援委託事業領域2「機関リポジトリコミュニティの活性化」を受託。(主担当：北海道大学 期間：H18-19)
- ・メーリングリスト、Wiki開始
- ・第1回DRFワークショップ(以降DRF+回次と呼ぶ)を千葉大で開催。(広報グッズコンペティション併催。)



2007
(H19)

- ・DRF2(早稲田大学)
- ・DRF3(パシフィコ横浜)以降、毎年図書館総合展で全国ワークショップを開催する。
- ・DRF地域ワークショップを岡山大学で開催。以降、各地で多くのワークショップが開催される。(DRF-開催地名と呼ぶ)地域のコミュニティ活性化に貢献。



2008
(H20)

- ・DRF International Conference2008(DRFIC2008)を大阪大学で開催。8か国96機関193名の参加。
- ・学術機関リポジトリ構築連携支援委託事業領域2「機関リポジトリコミュニティの活性化」を受託。(主担当：北海道大学 期間：H20-21)
- ・共同リポジトリプロジェクト(ShaRe)との共催で、広島大学・山形大学・関西学院大学で地域ワークショップを開催。
- ・欧州DRIVERプロジェクトとの連携覚書を交わす。
- ・DRF4(パシフィコ横浜)



DRFとOA関連年表 ※DRF関連事項は青字

2009

(H21)

- ・ オープンアクセスを支援する国際連携組織COAR (Confederation of Open Access Repositories)に加盟。
- ・ DRF International Conference2009(DRFIC2009)を東京工業大学で開催。
- ・ 主題 (医学・看護学) ワークショップを東京慈恵会医科大学で開催。
- ・ 技術ワークショップをNII軽井沢セミナーハウスで開催し、ツール・ソフトウェア等の開発を行う。
- ・ DRFロゴ出来!
- ・ DRF5 (パシフィコ横浜)



2010

(H22)

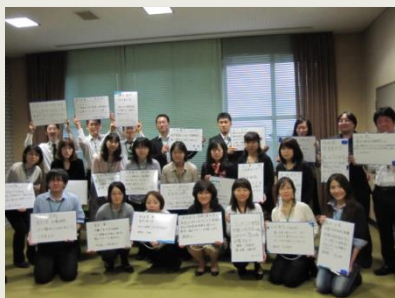
- ・ DRF新体制発足。108機関で再結成。DRF6 (北海道大学)
- ・ 月刊DRF創刊。以降2017年3月まで87号を刊行。
- ・ 学術機関リポジトリ構築連携支援委託事業領域3「機関リポジトリコミュニティ活性化のための情報共有」を受託。(主担当:北海道大学 期間:H22-24)
- ・ 同上領域3「機関リポジトリ担当者の人材育成」(主担当:大阪大学)「機関リポジトリ地域コミュニティの活性化」(主担当:広島大学)等と協働し活動。
- ・ 国立情報学研究所学術ポータル担当者研修に協力。
- ・ 第1回総会をパシフィコ横浜にて開催。
- ・ DRF7 (パシフィコ横浜)
- ・ 参加機関数:122
- ・ NIIと国公私協力委員会との間における連携・協力の推進に関する協定。
- ・ 国立国会図書館、博士論文デジタル化。



2011

(H23)

- ・ 国立情報学研究所からの委託を受け、機関リポジトリ新任担当者研修を開始。応募多数のため追加開催。
- ・ 機関リポジトリ中堅担当者研修を九州大学で開催。
- ・ NII共用リポジトリ (JAIRO Cloud) 募集開始。
- ・ JST,JaLCの立ち上げを発表。
- ・ PLoS ONE等、OAメジャーナルの勢力拡大。
- ・ 「転覆計画」を翻訳。
- ・ DRF8 (パシフィコ横浜)
- ・ 参加機関数:127



DRFとOA関連年表 ※DRF関連事項は青字

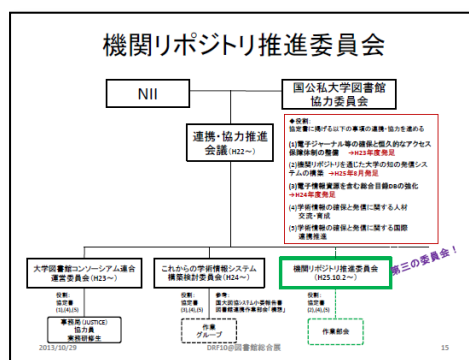
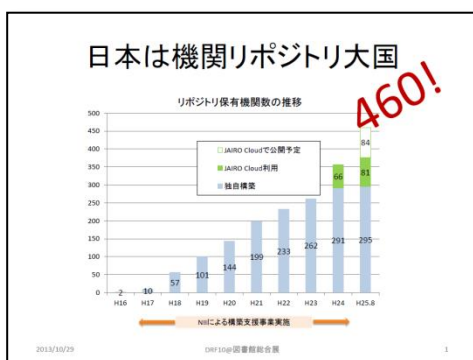
2012
(H24)

- ・リポジトリサポートプロジェクト (RSP)、英国研究リポジトリ委員会 (UKCoRR)と協力関係を結び、了解覚書を交わす。
- ・機関リポジトリ新任担当者研修、中堅担当者研修開催。
- ・DRF9 (パシフィコ横浜)
- ・国内機関リポジトリ全文公開件数100万件を突破。
- ・BOAI10宣言「Setting the default to Open」
- ・フィンチレポート発表。
- ・「学術情報の国際発信・流通力強化に向けた基盤整備の充実について」
- ・学位規則の改正案に関するパブリックコメント実施。



2013
(H25)

- ・DRF10 (パシフィコ横浜)
- ・月刊DRF新連載スタート
- ・参加機関数：155
- ・学位規則が改正され、博士論文はインターネットを利用した公表となる。
- ・機関リポジトリ推進委員会設置、「大学の知の発信システムの構築に向けて」(竹橋宣言)を発表。



2014
(H26)

- ・オンライン勉強会開催 テーマ：博士論文
- ・機関リポジトリ推進委員会と共催で図書館総合展フォーラム開催
- ・機関リポジトリ推進委員会WG始動。
- ・JAIRO Cloud、既構築システムからの移行スタート。

2015
(H27)

- ・機関リポジトリ推進委員会と共催で図書館総合展フォーラム開催
- ・月刊DRF5周年。
- ・オンライン勉強会開催 テーマ：研究データから研究プロセスを知る。
- ・京都大学ほかオープンアクセス方針を採択する機関が増加。
- ・NIIでJaLC準会員受付開始、機関リポジトリへのDOI付与が可能になる。
- ・内閣府、オープンサイエンスに関する報告書を公表。

Digital Repository Federation

Groups

/ 参加者・グループ分け

- Participants: 14 (Inc. 4 facilitators)
- Interviewees: 18
- Moderator: Yuko MATSUMOTO (Hiroshima Univ.)

Discipline	Participants	Facilitator	Interviewees
1 Natural science	4	Yasuyuki MINAMITAMA (National Institute of Polar Research)	7
2 Human & Social science	4	Takuro KAWAMURA (Iwanoana Univ.)	5
3 Life science	3	Hayahiko OZONO (Osayama Univ.)	3
4 Science, Engineering & Informatics	3	Noboru NAKATANI (Osaka Univ.)	3

Mar. 3, 2016 DRF1 - Report on practices of data interviews in Japan 9

2016
(H28)

- ・オンライン勉強会開催 テーマ：第2回研究データから研究プロセスを知る。
- ・JPCOARへの要望書提出。
- ・オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR) 設立総会。
- ・文科省「学術情報のオープン化の推進について (審議まとめ)」
- ・内閣府「第5期科学技術基本計画」

DRF事務局 (2006-2007)

加徳健三 (北大) 2006
 杉田茂樹 (北大) 2006-2007
 西山常清 (千葉大) 2006-2007
 鈴木宏子 (千葉大) 2006-2007
 木下聡 (金沢大) 2006-2007
 内島秀樹 (金沢大) 2006-2007
 杉田福夫 (北大) 2007

運営委員会 (2009-)

委員長
 逸見勝亮 (北大) 2009-2010
 新田孝彦 (北大) 2011-

 杉山宗武 (千葉大) 2009-2010
 内島秀樹 (金沢大/筑波大/神戸大) 2009-2015
 石井道悦 (広島大) 2009-2010
 片山俊治 (大阪大) 2009-2011
 関川雅彦 (筑波大) 2009-2011
 入江伸 (慶應大) 2009-2011
 杉田茂樹 (小樽商大/千葉大) 2010-2015
 島文子 (千葉大) 2011-2012
 甲斐重武 (広島大) 2011-2013
 井上修 (東北大/大阪大) 2012-2014
 鈴木正紀 (文教大) 2012-
 鈴木雅子 (旭川医大/静岡大) 2013-
 森いづみ (お茶大) 2013-
 高橋努 (広島大) 2014-
 尾崎文代 (鳥取大) 2016-
 山本和雄 (琉球大) 2016-
 富田健市 (北大) 2015-

企画委員会 (2008-2009)

杉田福夫 (北大) 2008-2009
 内島秀樹 (金沢大) 2008-2009
 白木俊男 (広島大/大阪大) 2008-2009
 上原正隆 (千葉大) 2008
 片山俊治 (大阪大) 2008
 大園隼彦 (岡山大) 2008-2009
 尾崎文代 (広島大) 2008-2009
 斎藤未夏 (筑波大) 2008-2009
 重嶋まみ (早稲田大) 2008-2009
 杉田茂樹 (北大) 2008-2009
 鈴木雅子 (小樽商大) 2008-2009
 武内八重子 (千葉大) 2008-2009
 筑木一郎 (京大) 2008-2009
 橋洋平 (金沢大) 2008-2009
 前田信治 (大阪大) 2008-2009
 吉松直美 (九大) 2008-2009
 杉山宗武 (千葉大) 2009
 藤井明 (広島大) 2009

監事 (2013-)

久保田壮活 (小樽商大) 2013-2014
 今野穂 (札幌医大) 2013-
 結城憲司 (小樽商大) 2015-

企画ワーキンググループ (2010-)

尾崎文代 (広島大) 2010, 2012-2013	真中孝行 (筑波大) 2013
杉田茂樹 (小樽商大) 2010-2012	武内八重子 (千葉大) 2013-2014
鈴木雅子 (北大/旭川医大) 2010-2012	柴田育子 (一橋大) 2013
守本瞬 (金沢大) 2010-2012, 2014	佐藤 翔 (同志社大) 2013-
吉松直美 (九大) 2010-2011	杉山智章 (静岡大) 2013-2015
前田信治 (大阪大) 2010	川井奏美 (金沢大) 2013
森一郎 (千葉大) 2010	和田崇 (奈良県立医大) 2013
上田大輔 (広島大) 2011	松本侑子 (広島大) 2014-2015
鷗沢和往 (北大) 2011	中谷昇 (鳥取大) 2014-
阿部潤也 (東京歯大) 2011, 2013	川村拓郎 (広島大) 2014-
大澤類里佐 (筑波大) 2011	三角太郎 (千葉大) 2014
谷奈穂 (千葉大) 2011	佐藤恵 (東北学院大) 2014
濱知美 (広島大) 2012	小村愛美 (神戸大) 2014
大園隼彦 (岡山大) 2012-2013	林和宏 (名工大) 2014
橋洋平 (金沢大) 2012	笠井美由紀 (北大) 2015-
土出郁子 (大阪大) 2012	下村昌也 (神戸大) 2015
西園由依 (鹿大) 2012-2015	塩田知也 (千葉大) 2015
三隅健一 (北大) 2013-2014	香川文恵 (金沢大) 2015
大園岳雄 (香川大) 2013-	近藤絵理子 (北大) 2016-
佐々木翼 (北大) 2013-2015	前田翔太 (北大) 2016-

国際連携 (2010-2012)

内島秀樹 (金沢大) 2010-2012
加藤信哉 (アドバイザー) 2011-2012
杉田茂樹 (小樽商大) 2011-2012
鈴木雅子 (北大/旭川医大) 2011-2012
土出郁子 (大阪大) 2011-2012
徳田聖子 (筑波大) 2011
土屋俊 (アドバイザー) 2011-2012
逸村裕 (アドバイザー) 2011-2012
三根慎二 (アドバイザー) 2011-2012
工藤絵理子 (九州大) 2011
藤原恵理子 (金沢大) 2011
栗山正光 (アドバイザー) 2011-2012
西園由衣 (鹿児島大) 2012
高橋欣瑛 (小樽商大) 2012
城恭子 (北大) 2012

広報 (2012)

尾崎文代 (広島大) 2012
阿部潤也 (東京歯大) 2012
大園岳雄 (香川大) 2012
谷 奈穂 (千葉大) 2012
永井一樹 (兵庫教大) 2012
中山知士 (筑波大) 2012
門間泰子 (福島大) 2012
和田 崇 (奈良県立医大) 2012
杉田茂樹 (小樽商大) 2012
鈴木雅子 (旭川医大) 2012
守本瞬 (金沢大) 2012
濱知美 (広島大) 2012
大園隼彦 (岡山大) 2012
橋洋平 (金沢大) 2012
土出郁子 (大阪大) 2012
西園由依 (鹿児島大) 2012

集会企画・人材養成サブWG/集会WG (2010-2012)

阿部潤也 (東京歯大) 2010
岩澤尚子 (香川大) 2010
岩井雅史 (信州大) 2010
北村多樹子 (高知工科大) 2010-2011
佐藤晋巨 (聖路加看護大) 2010
鈴木正紀 (文教大) 2010-2011
中請真弓 (広島市立大) 2010
中山千佳子 (岡山大) 2010-2011
三角太郎 (山形大) 2010
門間泰子 (福島大) 2010-2012
吉光紀行 (山口大) 2010
大園岳雄 (香川大) 2011-2012
加藤晃一 (浜松医大) 2011
川井奏美 (金沢大) 2011-2012
永井一樹 (兵庫教大) 2011-2012
西園由依 (鹿児島大) 2011
森石みどり (大阪大) 2011
近藤喜和 (奈良先端大) 2011
濱 知美 (広島大) 2012
守本 瞬 (金沢大) 2012
上田大輔 (広島大) 2012
菊池美紀 (聖学院大) 2012
坂本祐一 (大阪大) 2012
立目 良 (広島大) 2012
谷 奈穂 (千葉大) 2012
中村 健 (大阪市大) 2012
中山知士 (筑波大学) 2012
濱田佳奈子 (高知工科大) 2012
南絵里子 (小樽商大) 2012
和田 崇 (奈良県立医大) 2012
鶴澤和往 (北大) 2012

技術 (2010-2012)

磯野肇 (奈良大) 2010-2012
上田大輔 (広島大) 2010-2011
大園隼彦 (岡山大) 2010-2012
武内八重子 (千葉大) 2010, 2012
高久雅生 (物質材料研究機構) 2010-2011
土出郁子 (大阪大) 2010
徳安由希 (九州工大) 2010
野中雄司 (室蘭工大) 2010-2011
堀越邦恵 (北大) 2010, 2012
前田信治 (大阪大) 2010
森保信吾 (広島工大) 2010-2012
深川昌彦 (山口大) 2011-2012
岩井愛子 (千葉大) 2011
橋洋平 (金沢大) 2012
真中孝行 (筑波大) 2012
糸林真優子 (旭川医大) 2012
三隅健一 (北大) 2012

アドバイザー (2006-)

土屋俊 2006-	尾城孝一 2006-
栗山正光 2006-	村上祐子 2006-2008
行木孝夫 2006-	平元健史 2010-
池田大輔 2006-	渡邊隆弘 2010-
佐藤義則 2006-	加藤信哉 2011-
逸村裕 2006-	小山憲司 2011-
竹内比呂也 2006-	尾崎文代 2011
倉田敬子 2006-	熊淵智行 2013-2014
三根慎二 2006-	山本和雄 2013-2015
芳鐘冬樹 2006-	杉田茂樹 2016-

佐藤翔

(同志社大学)(2013-16企画WG)

DRFの名は日本リポジトリ史の一時代として
記録・記憶に残り続けるでしょう。
皆さんお疲れ様でした!



栗山正光

(首都大学東京)
(2006-16アドバイザー、2012-16国
際連携WG)

DRFにはお世話になりました。皆さんがお膳立てしてくだ
さった舞台で、勝手なことを書いたりしゃべったりして、
扎扎实り業績として申告させてもらいました。懺悔と感謝の
念を込めて。



尾城孝一

(東京大学)(2006-16アドバイザー)

コミュニティを成功に導くための要件
は、(1) 会員が共有できる理念、
(2) 安定した財政と組織の基盤、
(3) 会員の参加意識です。このうち最
大の難関は(3)ですが、どういうわけ
か、DRFは(3)だけは完璧に満たした
コミュニティだったと評価しています。
「会員一人一人がコミュニティのため
に何ができるのかを常に考える」という素
晴らしい伝統をぜひJPCOARにも引き継
いでください。



徳安由希

(元・九州工業大学)(2009-10技術サポートWG)

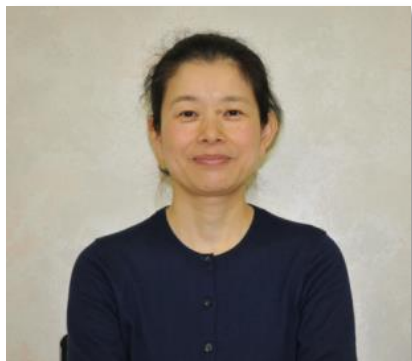
DRFを通じて全国各地の方々と交流できたおかげで業務以上のつながりをつくることができました。今は利用者としてリポジトリを活用しています。ありがとうございました！



吉松直美

(九州大学)(2008-11企画WG)

DRFお疲れ様でした。私のDRFでの数年は未知の事へのチャレンジがむしやりにこなした数年でした。“走”のイメージ。仕事を通じて沢山の方々とお会いでき、色んな視点や力をもらいました。皆様の顔が浮かびます。元気ですか、これからも道は続きますね。まずは振り返り、本当にありがとうございました。



北村多樹子

(高知工科大学)(2010-11集会WG)

ずいぶんご無沙汰しております。高知工科大学の北村です。DRFが解散するとのことで、いろんなことを思い出しました。思い出はたくさんあるのですが、一番はやはりたくさんの人に出会えたことです。様々な問題をクリアすべく、アクティブな図書館員の皆さんと交流することで多くの助力を得て、規模の小さな本学でも機関リポジトリに積極的に取り組むことができました。また、2010年2月に開催した「DRF-Tosa」も良い思い出です。至らない点も多くありましたが、委員の皆様にご助けをいただきながら、自分たちでもワークショップをできたぞ！という思いは大切な宝物です。当時ご参加いただいた皆様ありがとうございました。今後、JPCOARで活動が続くとのことですが、携わる皆様が元気に楽しく活動し、今後、オープンアクセスがますます発展していくことを願っております。本当にありがとうございました！



中山知士

(東京大学)(2012集会WG、広報WG)

OA Weekでイベントやったり、グッズ作ったりしたのが楽しい思い出です。DRFの活動を通じてパワポやイラレのスキルが上達しました。ありがとうございました★





加藤晃一

(東京工業大学)(2011企画サブWG)

DRFで何かの委員をやったかなあ、と依頼が届いた時に思ったものの、振り返ればDRF立ち上げ時に千葉大で開催したDRF1以降、DRF8までは何かしら担当していたようだし、DRFIC2009でも裏方はやったし、浜松医大時代はDRFtech-Hamamatsuを主催したり、と結構関わりは深かったようです。DRF主催の研修会では、私がCSI事業で企画した研修サイト(UsrCOM)も活用していただきましたし、イベントで会う機関リポジトリ担当者は若い方が多く、楽しく交流させていただきました。個人的な反省といえばDRFに消極的な機関への異動以降、活動に参加しなかったことでしょうか。DRFそのものにおいては世代交代が十分に出来ていなかったように思います。とはいえJPCOARの発足もDRFがあったからでしょう。私にとってDRFでのご縁は一つの財産、ここで御礼申し上げるとともに、JPCOARでもDRFの精神が継続されることを願います。📦

森一郎

(新潟大学)(2010企画WG)

恐らく載せていただくのは創刊号以来だと思います。創刊号には「どんな団体だって入るだけではメリットはない、メリットは自分たちで作るものだ。」などと偉そうなことを言ったことが記録されていますが、その考えは今も変わっていません。DRFであれ何であれ、1つの機関ではできないことがコミュニティでならできるかもしれません。DRFは「ひと区切り」となりますが、“ソレ”を実現するためのコミュニティということについて、これからも考えていきたいと思います。📦



三角太郎

(千葉大学)(2010集会・人材養成WG、2014企画WG)

「さよなら」は別れの言葉ではなく、次のステージで再び逢おうという約束だと思いたい。DRFに未練を残しても寂しくなるだけなので、たまに思い出話に花を咲かせるくらいで。DRFとは常に近い距離をとっていたわけではなく、ところどころ交叉したぐらいだったが、一番思い出深いのはDRF/ShaRe-Yamagataと月刊DRF創刊。どちらもドタバタの中でなんとかなってしまった、というのが印象。たいていドタバタながら、ハレの場としてはDRFは機能していたと思う。でもケのところまでは根付ききれなかったか。日常的運営の安定化、それが次のステージへもっていく課題か。📦



岩井雅史

(信州大学)(2010集会WG)

ごぶさたしています。リポジトリの現場から離れて久しいですが、月刊DRFは毎号拝見していて、よい刺激を受けていました。2度の国際会議は、とても印象深い思い出になっています。今後も日本のオープンアクセスの発展を願っています。🔴

柴田育子

(一橋大学)(2013企画WG)

私が最初にDRFの方と出会ったとき、国公私の垣根を超えて和気あいあいととても楽しそうに活動しているのが印象的だったのを覚えています。ほんの数ヶ月ですが、ウィットに富んでる皆様とお仕事できたことにとても感謝いたします。ありがとうございました。これからもJPCOARとして、OA推進に向けてますます活動が発展していくことを期待したいと思います。🟣



大澤類里佐

(東京大学)(2011企画WG)

DRFはメーリングリストから入って、大変な量が飛び交っているし戦ってる人もいるし大変なところだなと思っていました。それが、リポジトリ担当になったからには活動しなければいけませんと前任者に申し渡されて恐る恐る参加したら…… イベントに参加し、柄にもなく講師を務め、月刊DRFの編集もと、大変ではなかったとは決して申しませんが、考えてもみなかった貴重な経験ができました。中でも思いつきで口走った図書館総合展でのランチミーティングを事務局の皆さんがあれよあれよという間に実現してくださったのは忘れられません。

DRFは大学図書館界において稀有な「場」でした。みなさん、お疲れ様でした。ありがとうございました！🟣





和田崇

(奈良医科大学) (2012集会WG、広報WG、2013企画WG)

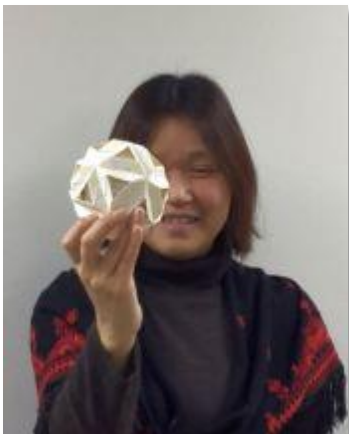
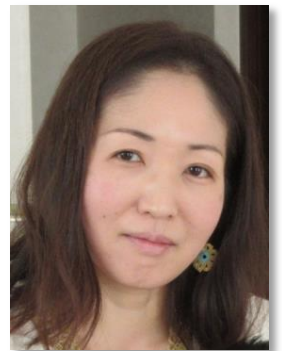
DRFに初めて関わったのは2009年（平成21年）12月に関西学院大学さんで行われた地域WS（ShaReとの共同開催）でした（その前月に立ち上げたばかりの当学リポジトリGINMUの事例報告を行いました）。翌年、当学奈良医大で主題（医学、看護学）WS開催し、その後しばらくして広島大学（当時）の濱さんからお誘いがあり、2012年、2013年とWG委員（集会、広報、企画）として関わらせていただきました。お誘いを受けた直後に、いきなり主題（医学、看護学）WSの担当を任されることになり超テンパったことを覚えております。委員の期間中は、WSの度にあーでもない、こーでもないと喧々囂々いたしましたが、今ではいい思い出です。JPCOARには残念ながら参加いたしません、何かお手伝いできることがあればお気軽にお声がけください。本当にお世話になりました。



土出郁子

(大阪大学) (2010-12国際連携WG、2009-10技術サポートWG、2012企画WG)

あのころDRFを取り仕切っているせんぱいがたはすごい人たちにみえた。機関や設立母体、時には国をも越えて、オープンアクセスのいろんな悩みや課題、経験をシェアしよう！と奮闘していた。その後を見よう見まねで追いかけて、試行錯誤しながらも、発信しつなげて、今を一緒に考えて取り組めることはこんなに楽しいんだ、ということを実感させてもらったプロジェクトでした。大変な事務業務を一手に引き受けてくださった歴代のDRF事務局（北大）の皆さま、ありがとうございます。そして、コミュニティの持つちから、は、この先も不変です。🍀



森石みどり

(大阪大学) (2011企画サブWG)

リポジトリについて一体どうすればいいのか、誰に教えてもらえばいいのかわからなかった時代、DRFだけがよりどころだった時代を思い出すと、今、もうDRFがなくても大丈夫、というところにたどり着いたことがとても感慨深いです。

DRF委員だった期間よりもずっと長く、リポジトリ担当者としてDRFのお世話になりました。DRFを通じて、勉強し、多くの方と知り合うことができ、感謝しています。改めまして、DRFを運営されてきた皆様に御礼と、DRFが果たしたことに感謝と、そのDRFの解散にお祝いを申し上げます。



近藤喜和

(名古屋大学)
(2011集会WG、企画WG)

「顔も知らん、会ったこともない他大学のリポジトリ担当者にいきなり電話してあれこれ聞けへんっちゃうのは、リポジトリ担当者としていかなものか」という前田さんの言葉は、本当に気づかされるものがありました。そして実際に電話をしてみたり、トンチンカンな質問をしてみたりしても、冷たい態度をとられたことも怒られたこともありません。知っていることはみんなで分け合って、みんなで成長していこうという土壌は、DRFの運営委員の方々や、各機関のリポジトリ関係者たちが築いてきたものだと思います。この土壌が未来の図書館をかたち作っていくのかもしれない！！



小村愛美

(大阪大学)(2014企画WG)

リポジトリを担当している間、DRFにはとてもお世話になりました。運営委員やWGの方々を中心に、とても強固で頼りになるコミュニティだと感じていました。雰囲気慣れるまでは、メーリングリストでの発言など新規参入者には敷居が高いところもありましたが(笑) 活動内容が参加者の実務と大きく重なっていて、また研究者とのつながりが深いところは、図書館関連の他のコミュニティと比べて珍しいと思います。機関リポジトリやオープンアクセスに対象を絞っているが故でしょうか。一年間だけでしたが、2014年には企画WGにも参加させていただきました。たくさんの方と知り合い、人のネットワークが広がりました。JPCOARに集約後の活動も、注目していきたいと思います。オープンアクセスや研究データのオープン化が活動の主眼になると思いますが、これらを含む潮流としてオープンサイエンスがあり、またオープンデータは行政や市民活動などのフィールドでも広がっています。こうした他分野も視野の端に捉えて活動していけると良いのではないかな、と思いつながら、今後の発展を願っています。



永井一樹

(兵庫教育大学) (2011企画サブWG、2012
集会WG・広報WG)

DRFワーキングメンバーとして数年間、主に月刊DRFの編集や新任担当者研修の「広報」関連のコマに関わらせていただきました。

DRFには、博識で教養豊か人がたくさんいて、田舎者の私などはうっかり無知蒙昧が露呈しないようできるだけ言葉少なに身を強張らせていたのですが、そんな私が一度だけ（いや何度か）DRFメンバーに声を荒げて説教をしたことがあったのでした。それは、「余白」というものの扱いについてです。とかく博識な人というのは余白を見つけるとついそこに情報を埋め込もうとしがちです。だから、月刊DRFでも隅から隅まで文字がびっしりと詰め込まれた記事がしばしばみられました。しかし、情報は多ければ多いほど、その価値は下がります。最も伝えたい情報が饒舌によって、その他大勢のなかに埋もれてしまう。それでは本末転倒ではないか。およそそんな講釈を垂れたのだったと思います。

ところが、DRFメンバーを辞し一読者として月刊DRFを楽しませていただくようになってから、私ははたと気づいたので。月刊DRFに余白など要らなかったのだと。それは、フランス料理ではなく中華料理だったのだと。

一読者として接する月刊DRFの記事は、私にとってどれもタイムリーかつ実用的で、正直なところ詳しくければ詳しいほどありがたいものばかりでした。

それは、IRやOA関連の実務で困っている読者の元へ、できるだけ迅速に詳しく丁寧に情報を伝えようとする月刊DRF編集部の確固たる姿勢の表れだったのだなあ。と今更ながら思い至った次第です。そんなわけで、この記念すべき特別号の場をお借りしまして、私の軽率な前言を衷心より撤回させていただく所存です。📦





濱知美

(広島大学)(2012企画WG、集会WG)

OAやDRFの活動は、それまで自分がしてきた図書館の仕事と異なるところが多く、最初は戸惑いもありました。しかし、お陰様で他機関の方や学内の教員と繋がりが出来き、私の財産となりました。この世界に私を引き入れ、ご指導くださった皆様、本当にありがとうございました。💜

石井道悦

(関西外国語大学)(2009-10運営委員)

DRFの多様な活動は、大学図書館の役割のアピールと図書館員のネットワーク作りに大きく貢献した。北大事務局歴代関係者に感謝。定山溪温泉と雪まつりは忘れない!! 🍷



申請真弓

(元・広島市立大学)(2010集会企画・人材養成サブWG)

DRF解散そして次なる形への進化、感謝とさらなる発展を期待する気持ちでいっぱいです。DRFの活動は、データだけでなく、私自身の世界をオープン化し、国内外とつながることができた貴重な場でした。その精神は私の現在の業務にも生かされています。大変お世話になりありがとうございました。今後のJPCOARの活動に期待します。💜



川村拓郎

(広島大学)(2014-16企画WG)

DRFとはリポジトリ担当になった当初から約3年間の付き合いになります。リポジトリのりの字くらいしか知らなかった私にとって、DRFは良い勉強の場でした。ここで出会った人や得た知識に助けられた経験は数知れず、それらは、これからも私の推進力になっていくのだと思います。このようなコミュニティに関われたことをとても嬉しく思っております。

最後に、事務局である北大の皆さまをはじめ、これまでDRFをつくってきた方々に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



高橋努

(広島大学)(2014-16運営委員)

運営委員を務めさせていただきDRFに直接関わったのが、DRF最後の3年間となってしまいました。私自身はあまりお役に立つことができませんでしたが、平成18年度の設定以来DRFに積極的に関わりわが国の機関リポジトリの発展に貢献されてきた多くの方々に対して、心から敬意を表します。

これまでDRFとして行われてきた活動や形成されてきたネットワークなどがレガシーとしてJPCOARにも引き継がれ、さらに発展していくことを願っています。

上田大輔

(広島大学)

(2009-11技術サポートWG、2011企画WG、2012集会WG)

DRFが行った活動は、機関リポジトリの発展とオープンアクセスの促進だけでなく、全国の大学図書館や研究機関を結び付けたネットワーク、海外連携を行う視野の広さ、企画から実施までの実行力など、大学図書館の活動の新しいモデルとなるものだと思います。私自身、DRFの参加機関の一員として、また、WGのメンバーとして、多くの人達と関わり、様々な経験をさせてもらったことは大きな財産となっています。本当にありがとうございました。



中谷昇

(鳥取大学)(2014-16企画WG)

図らずも最後の企画WG主査となってしまいました。実際に関わらせていただいた期間はほんの僅かでしたが、みなさまが作り上げて来られたDRFという場へ、少しでも参加させていただきましたこと、そこで多くを学ばせていただきましたことに、心よりお礼申し上げます。反省点も数えきれないくらいありますが、それでも、DRFを通じて行ったことが、これまでのDRFにおいて、あるいはこれから、新しいどこかにおいて、何かのお役に立つことができたら、この上なく幸いに存じます。🔴



© Fumiyo O. 2016



森保信吾

(広島工業大学)(2010-2012技術サポートWG)

2010年度から2012年度まで参加させていただきました。わずかな期間でしたが、多くの優秀な方々に出会う機会になり、私の中では大変大きな経験になっています。

DRF後の新時代におかれましても、運営に関わられた方々をはじめ参加機関の皆様の益々のご活躍を心からお祈りいたします。

財源がなくなってからは活動範囲も大きく限られたとはいえ、それまでの実績は多大なものであり、会費なしでありながらも多くの図書館員の大きなよりどころとして存在してきたからこそ、数ある図書館関連団体の中でもまれにみる素晴らしい組織だったと思っています。🔴

松本侑子

(東京大学)(2014-15企画WG)

たった1年前のことなのに、月刊DRFの執筆依頼・編集と自分の原稿執筆に追われた日々が懐かしく感じます。突然の執筆依頼(という名の無茶振り?)に快くご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。担当一人の力ではできないことも、DRFの力を借りればできる!と思える、心強い存在でした。今後はJPCOARがその役割を担ってくれることを期待します。🔴



香川文恵

(北陸先端科学技術大学院大学)(2015企画WG)

活動に参加させて頂いたことが今も役にたっています。たくさんの方に会いお話しできたことが、なによりうれしかったことでした。ありがとうございました。🔴



森いづみ

(お茶の水女子大学)(2013-16運営委員)

まったく新しい業務で館内に相談相手がいなかった三重大担当時代から、NIIでの機関リポジトリ推進担当を経て現在に至るまで、本当にお世話になりました。頑張れたのはDRFのおかげです。そして自分も何か貢献したいという思いを芽生えさせてくれました。発展的解消をしても、DRFはずっと関係者の中に残り続けたいと思います。特に事務局として支え続けてくれた皆さま、ありがとうございました！



鈴木正紀

(文教大学)(2010-11集会・人材養成WG、2013-16運営委員)

「機関リポジトリ」って何？ というくらい、このシステムに対する理解に欠けていた私が、なんとか業務を担当してることができたことの大きな助けとしてDRFはありました。埼玉大学の主導により、埼玉県地域共同リポジトリSUCRAの共同リポジトリとしての運用が開始され、CSI事業が盛り上がっていた時期にDRFに関わり始めたので、あちこちのワークショップに顔を出すことができ、たくさんの知り合いができました。それも大きな財産です。DRFが日本のリポジトリの歴史に確固たる歴史を刻んだのは間違いないことだと思います。これからは別組織がリポジトリ事業の推進を担うことになるわけですが、DRFの、はつらつと楽しくやる、という文化は継承していてもらいたいと思います。ずっと事務局を担ってくれた北海道大学の方々には、特にお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。



藤原恵理子

(福井大学)(2011国際連携WG)

DRFの活動に委員として参加したのは、ごく短い期間でしたが、スティーブン・ハーナッドの「転覆提案 (THE SUBVERSIVE PROPOSAL)」の日本語訳に関わらせていただく等、大変貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。



三隅健一

(帯広畜産大学) (2012技術サポートWG、2013-14企画WG、事務局)

さよならDRFコミュニティ

帯広畜産大学の三隅です。DRFというコミュニティに参加できてとても良かったです。DRFという名前が消えてしまうのは寂しい気もしますが、自分の大学だけではかなわないような課題に直面したときに相談したり協力したりできるコミュニティが一時代存在していたということが、今後に向けてもプラスになっていくんだろうなと思います。

南絵里子

(小樽商科大学) (2012集会WG)

H24年度の「中堅担当者研修」などに裏方として携わることができ、いろいろと勉強させていただきました。ありがとうございました！



糸林真優子

(旭川医科大学) (2012技術サポートWG)

たった1年の名ばかり委員でしたがお世話になりました。日本の機関リポジトリはなかなか順風満帆とはいけないようですが、本来の目的からブレずに、OAへの活動が無駄ではなかったと笑って言える未来が来ることを願いつつ。ありがとうございました。





野中雄司

(北海道大学)(2009-11技術サポートWG)

DRFには平成20年から3年ほどお世話になりました。当時は全国的なお仕事の経験もなく、かつ周りのみんなについていくのが必死でありよく考えていなかったのですが、DRFを離れ早6年、今になってみると自分にとってDRFはすごく大きな存在だったなとしみじみ感じています。自分にとって、DRFに育てられた部分、DRFで得た仲間がどんなに大きなことだったのか、と。そのDRFが発展解消されることで、しみじみしちゃいました。きっと全国に私と同じ想いの人は多いことなのでしょう！DRF、ありがとうございました！！

梶原茂寿

(北海道大学)(2014-16事務局)

事務局を3年勤めました。長いDRFの活動の中では短い間ですが、解散への手続きなどそれなりに苦労もあった3年間でした。今後DRFの活動はJPCOARへと引き継がれますが、今までのDRFの歴史や資産はしっかりと守っていけるよう北海道大学として、今後も協力してまいります。ありがとうございました。



城恭子

(北海道大学)(2011-13事務局、2012-13国際連携WG)

2011年度から3年間、DRF事務局としてお仕事をさせていただきました。北大近くのスポーツバーでビールを飲んだ帰り道、杉田茂樹さんの「城さん、スウェーデンとか好き？」の一言から、阪大の土出さんと一緒にCOAR総会@ウブサラに参加させていただいたことは、今でも良い思い出です。DRFの活動を通して、全国規模の大きな仕事に関わることができ、たくさんの尊敬すべき諸先輩方と出会えたことは、私のような地方大学の一係員にとっては大きな転機となりました。お世話になった皆さま、ありがとうございました。今後とも、どうぞよろしく願いいたします！



山本和雄

(琉球大学) (2012事務局、広報WG・事務局、2013-15アドバイザー、2016運営委員)

みなさま、お疲れ様でした。新しい取組が軌道に乗って一段落つくには10年ぐらいは掛かるものようです。DRFの経験を活かして、また新たな挑戦が続いてくれることに期待します。📦

近藤絵理子

(北海道大学) (2016企画WG)

図らずもDRF最後の1年に関わることになり、何だか不思議な気持ちであります。企画WGメンバーになる前からDRFにはそれなりに馴染みがありましたので、その現場に対しては色々な想像をしていたのですが、いざ携わってみると「結構パワーのいるところなんだなあ…」という印象です。月刊DRFの編集の手引きを初めて見た時に、DRFの発行には「あなたが思っている5倍くらい、時間がかかります」とあって衝撃を受けたのですが、実際に携わってみると、確かにそれくらい時間もかかるし、手間もかかるので、時には自転車操業(笑)…という、意外と慌ただしい現場でした。この月刊DRFの他にも様々な企画やら何やらを、これまで企画WGメンバーになった方々は実施してきており、企画WGメンバーの他にも携わってきた方々がおられたことを考えると、参加機関を含め、DRFをここまで育ててきた皆様には頭が下がる思いです。ありがとうございました。📦

佐々木美由紀

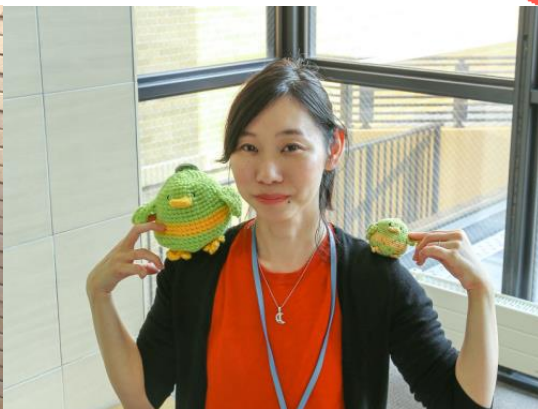
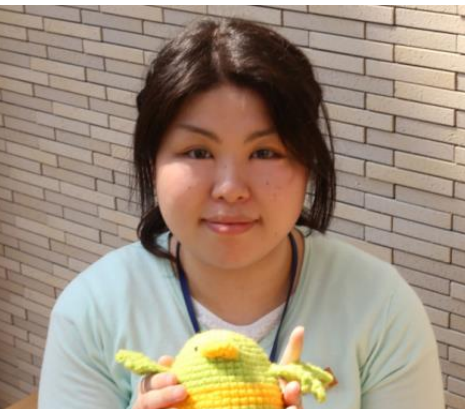
(北海道大学) (2015-16企画WG、事務局)

DRF企画WGの一員として2年間お世話になりました。リポジトリについて登録業務は少し経験があったものの、しっかり業務として向き合うのが初めてだったため月刊DRFを作成しながら日々勉強させていただいておりました。今までありがとうございました。📦

前田翔太

(北海道大学) (2016企画WG)

1年という短い間でしたが、月刊DRFの編集等でお世話になりました。大変でしたが勉強になりました。📦



内島秀樹

(富山大学)(2006-07事務局・2008-09企画委員・2009-15運営委員・
2010-12国際連携WG)

drfって何なんだとよく聞かれました。最近も退職した大先輩に同じ質問を受けました。なかなか微妙な質問で、答えるのが難しいです。が、とにかく楽しい記憶だけが残る活動で、これからもその気持ちが消えることはないでしょう。参加された方々皆さんが同じ気持ちであることを望みつつ、drfへのさよならの言葉とさせていただきます。



橋洋平

(金沢大学)(2008-09企画委員会、2012企画WG・技術サポートWG)

DRFと内島さんに巻き込まれた機関リポジトリ創生時代

金沢大学附属図書館は、DRFの設立当初から加盟している「第1期生」です。それどころか、設立時に出示された「活動趣意書」に、北海道大学の逸見館長、千葉大学の土屋館長と並び、当時の図書館長、鹿島正裕先生が名前を連ねています。「言いたしっぺ」の一人ということになります。もちろん仕掛け人は、「内島さん(現富山大学附属図書館)」です。その頃すでに、電子ジャーナルの価格高騰が大学図書館界では、大きな問題になっていました。内島さんの「すべての大学が機関リポジトリを持てば、学術コミュニケーションの流れが変わる。電子ジャーナル出版社にも影響があるはず」という夢のような言葉に唆され(?)、2006年6月に金沢大学学術情報リポジトリKURAを立ち上げることになりました。

「最初は地道に学内紀要。そのうち、KURAはグリーン論文だらけに」という感じで、コツコツかつ、それなりに積極的にやっていました。学内だけにとどまらず「リポジトリを普及させるには、みんなで支えるフェデレーションが必要。欧米では... (以下省略)」という早口の言葉にもなるほどと思い、DRF設立にも加担することになりました。その後も内島さんの行動力に巻き込まれて行きました。

「分からないことがあったら、いつでもメールで気軽に尋ねられるようにしたい」ということで、DRFのメーリングリストにも最初から参加していました。「難しく、堅いメッセージばかりだと書き込みにくいだろう。初歩的な質問をするのが私の役割」と思い、結構頻繁に書き込みをしていました。

オンラインでのやり取りだけでなく、オフラインでの会合も頻繁に行っていました。2006年11月に千葉大学で行われた第1回ワークショップを皮切りに、図書館総合展の中で行われたワークショップにも何回か参加しました(おかげで横浜が大好きになりました。)。2008年1月に大阪大学で行われた国際シンポジウムや2008年2月、雪の日に金沢で地域ワークショップを行なったことも思い出します。全国の大学図書館の職員がオンラインでもオフラインでも、これだけ活発に動き回り、つながっていた時代というのは、過去に例がなかったのではないのでしょうか。

その頃の我が家でのエピソードです。自宅で「今度、出張に行くことになった」と何気なくつぶやいたところ、何を思ったか、中学生だった娘が「リポジトリか?」と言葉を返しました。これには驚きました。言葉の意味など知らなかったはずなのに...「リポジトリ」という言葉の醸し出す、怪しげなインパクトを改めて実感したことを思い出します。

その娘も現在は大学を卒業。機関リポジトリやオープンアクセスの世界にもいろいろな動きが続き、DRFも解散ということになりました。

「D・R・Fと書いてダーフと読んでいいの?」という疑問が今でもノドの奥に引っかかっているのが心残りですが、10年あまりのDRFの活動は、全国的に見ても大変貴重なものだったと思います。「機関リポジトリを作り、広め、支える」という目的以上に、全国の大学図書館員間のつながりを強くしたことに意義があったと思います。図書館員が教員の研究室に向かうようになり、学部の会議で説明したり、図書館の外に動き始めたのもDRFの活動の延長にある気がします。

DRFに巻き込んでくれた内島さん、そして、機関リポジトリの創生の時代にDRFに関わることができたことに感謝をしたいと思います。ありがとうございました。

加藤信哉

(国際教養大学)
(2006-16アドバイザー)

DRFと最初に関わったのは、2008年12月11日(木)と12日(金)に山形大学で開催された、「DRF/ShaRe地域ワークショップ(北海道・東北地区)」でした。このワークショップでは、短い講演を行いました。全国の機関リポジトリを担当する大学図書館の皆さんと知り合うことができ、大変良かったと思います。翌2009年には「DRF地域ワークショップ(東北地区)」を東北大学附属図書館で、松も取れない1月7日(木)と8日(金)に開催しました。勤務先の総務課長であったのを良いことに、事務局もやれば講義(リポジトリ概論)もやるという無茶振りを発揮しました。当時の片山部長と小陳課長には色々とお迷惑をおかけしました。これらのワークショップは、東北地区の大学図書館員の交流の活性化のきっかけになったのではないのでしょうか。

最後に、DRFには懇親会も含めて楽しい思い出しかありません。🔴



なによりも組織は作るよりも、(綺麗に)終わらせるのが難しいものです(うまく終わらせられなかったプロジェクトの経験は豊富なので信じてください)。それを上手に成就した現在の体制、とくに北大の方々には敬意の念しかありません。それだけでなく、まだDRF的エネルギーが維持されていたからこそ、JPCOARへの移行が可能になっていると思いますというか、思いたい。そのようなエネルギーを注入、継承してきた老若男女のみなさんの貢献についてもやはり敬意の念しかありません。日本の大学には、「日本大学協会」のような組織はありません。情報関連施設系の四分五裂の状況もまた悲惨なものです。それに対して大学図書館界には、曲りなりにも国公立大学図書館協力委員会があり、設置種別を越えた協力体制はあったのですが、DRFの成功によってその体制はさらに強く、緊密なものになったといえます。その緊密さを実現したのは、この無謀な「月刊」誌の計画だったと思います。鈴木雅子さんが「げっかんで!」と叫んだときには唖然としましたが、それが、これまで続いたことにはさらに唖然とするしかありません。

なぜそれが可能となったのか、それを可能にしたものは、日本の大学図書館、そして大学における教育研究をこれからどのように支えるのか、不安をもちつつも期待しつつ、考えます。いずれお知恵を拝借したいと思います。🔴



土屋俊

(大学評価・学位授与機構)
(2006-16アドバイザー)

新田孝彦

(北海道大学附属図書館長)
(2013-16運営委員長)

DRFは、リポジトリ担当者コミュニティとして平成18年以来活動を続けて参りましたが、平成28年度末をもって解散することとなりました。参加機関は、157機関にも上り、活動期間中国内における機関リポジトリの発展とオープンアクセス促進の中核を担ってきたと自負しております。機関リポジトリを取り巻く環境は年々変化し、その重要性はさらに増大すると思われませんが、今後の活動は、オープンアクセスリポジトリ推進協会に引き継がれることとなります。協会がわが国におけるオープンアクセス推進の中核として発展することを祈念いたします。これまで10年以上にわたりDRFの活動に多大なご支援とご貢献をいただいたすべての皆さまに心より感謝申し上げます。



富田健市

(北海道大学)(2015事務局・2016運営委員)

DRFの発展的解散にあたって

DRF発足時には筑波大学に勤務しており、CSI事業ではSCPJを主に担当していたため、傍観者として活躍を見ていた記憶があります。筑波大学当時に関与したのは、2008年1月のDRFIC2008で大阪まで出張しています。それがきっかけになったのかどうかは定かではありませんが、2008年4月に東京工業大学に異動すると、2009年2月のDRF-Ookayama、その年12月のDRFIC2009に、会場館として大きく関与することとなりました。その後CSI事業が終了し、一方で機関リポジトリ推進委員会が発足すると、当初から委員として参加しました。当初は岡山大学からの参加でしたが、委員会の2年目に北海道大学に異動となり、DRFとの2足の草鞋をはくこととなりました。委員会3年目からは委員長となってしまったこともあり、リポジトリコミュニティの再構築が大きな課題となりました。そして委員会4年目の今年度、参加館の賛同を得てDRFを発展的に解散することが決まりました。委員会も今年度限りで終了し、来年度からはJPCOAR運営委員会に移行することとなります。この3月での退職を前に、一応の道筋を整備できたことに若干安堵しています。DRFの遺伝子がJPCOARに受け継がれ、皆さんの手で更に発展していくことを確信しています。これまで、どうもありがとうございました。これからの皆様の活躍を楽しみにしています。

おわりに：雑談のような編集後記

※写真左から

尾崎文代（鳥取大学） 2008-09企画委員・2010、2012-13企画WG・2011アドバイザ・2012広報・2016運営委員
杉田茂樹（東京大学） 2006-07事務局・2008-09企画委員・2010-15運営委員・2010-12企画WG・2012広報
2011-12国際連携WG・2016アドバイザ
鈴木雅子（静岡大学） 2008-09企画委員・2010-12企画WG・2011-12国際連携WG・2012広報・2013-16運営委員

杉田 10年ひと昔。とにかく次から次へといろいろやるのがあって、よく夜中にチャットで相談しましたねえ。脱線しまくりながらだったけど。

鈴木 今回、いいコメントをほんとにたくさんもらいましたね。涙が出ました。

杉田 今号にこれまでの運営委員やWG委員のリストをつけましたが、こんなに多くの大学図書館員がかかわったのかとあらためて感無量です。

尾崎 わたしは地域共同リポジトリの話为全国津々浦々でしたことが思い出深いです。あと、札幌のDRF6で熱出して懇親会をパスし、鬼のかく乱と言われたことも。

杉田 月刊DRFは最初、鈴木さんにやろうと言われて「はあ月刊？できるわけない」と思ったけど、続けましたねー。これも驚き。

尾崎 DRF6のときに作ろうと話したんだよね。大雪の札幌の地下街でした。

杉田 その後、鈴木さんが作って諮って一週間で出しちゃった。

鈴木 勢いがあったねー。私たちはここ数年はあまり直接編集をしてなくて、でも次々に新しい人たちが現れてこんなに続けられたのがすごい！

尾崎 今回の特別号も結構突貫で作ったので、当時のことを思い出しましたけどね（笑）。

杉田 Dr.FのFはFebruary。2月に創刊したからだったっけ。

鈴木 いえ、それは後付けで、DRFだから「Dr.F」。月刊DRFにDr.Fという博士キャラクタがほしいって尾崎さんに描いてもらったんですが、これは後からお絵かきクイズネタに何度もなりましたね（笑）。

尾崎 DRFのロゴもクイズネタによくしたけど、完璧に覚えてる人は少なかったんですよ。ロゴを作ったのは杉田さんだけど、虫みたいだと言われたりね。日本列島がJapanの「J」になってるんですよ。

杉田 尾崎さんが「沖縄がないぞ」とクレームしたので、ロゴの5個目の島は沖縄なんです（笑）。

鈴木 組織のこととかお金のこととか手続きのこととか、足りないことはいろいろあったけど、コミュニティとはなんであるかという基本的なことを学んだのはDRFからだったとあらためて思います。

尾崎 こうやってこれまでを俯瞰してみるとほんとにいっぱい人に会ってるなあ。わたしにとってこれは一番の財産です。きっと同じ思いの人が多くはいるはず。

杉田 機関リポジトリの仕事をはじめたのは北大の図書館にいたとき。そのあと何か所か職場を移ったけど、どこにいてもDRFと一緒に仕事した人がいる。

鈴木 まったく別の委員会で再会したり。

杉田 また機関リポジトリでも他の仕事でも、ご一緒できるといいですね。

尾崎 これまでDRFに携わってくれたほんとにたくさんの人たちも、それからこれを読んでくださってるみなさんも。

鈴木 はい！

杉田 まだどこかでお会いしましょう！



長い間のご愛読まことにありがとうございました。

月刊DRF特別号 平成29年3月31日発行 デジタルリポジトリ連合

